

著者紹介

トーマス・ライザー (Thomas Raiser)

フンボルト (ベルリン) 大学名誉教授。1935年にシュトゥットガルトに生まれ、チュービンゲン大学などで法律学を修め、論文「Haftungsbeschränkung nach dem Vertragszweck」で博士号を取得。ハンブルク大学、ギーゼン大学などを経て、フンボルト (ベルリン) 大学教授。1977年から1992年までフランクフルト高等裁判所裁判官を兼務する。研究対象は、法社会学関係のほか、会社法、共同決定法、企業法など多岐にわたる。ドイツの「法と社会学会」の設立メンバーでもある。数度にわたり日本に滞在し研究・交流を行っている。

訳者紹介 (*は監訳者、翻訳担当箇所については監訳者あとがきを参照のこと)

* 大橋憲広 (Norihiro Ohashi) 東京家政大学教授

専攻：法社会学

『ルーマン／来るべき知』（訳出部分を担当、勁草書房、1990年）、H. ロットロイトナー著「法思想における生物学的メタファー」『比較法学』第25巻2号（共訳、1992年）、「ベルリンにおける法曹養成——法の比較社会学」『東京家政大学研究紀要』第35巻人文社会科学（1995年）、『レクチャー法社会学』（共著、法律文化社、2001年）、『現代法ワークショップ』（敬文堂、2009年）

田中憲彦 (Norihiro Tanaka) 法政大学講師

専攻：西洋法制史

『歴史における法の諸相』（共著、敬文堂、1994年）、G. ケブラー『ドイツ法史』（共訳、成文堂、1999年）、ゲーイウス『法学提要』（共訳、敬文堂、2002年）

中谷 崇 (Takashi Nakaya) 駿河台大学准教授

専攻：民法

「架空環状取引と錯誤」『横浜国際経済法学』第15巻3号（2007年）、「双方錯誤の歴史的考察（1）～（4）（完）」『横浜国際経済法学』第17巻1号～第18巻1号（2008～2009年）、「わが国における錯誤法の生成」『駿河台法学』第25巻1号（2011年）

清水 聡 (Soh Shimizu) 法政大学講師／玉川大学講師

専攻：政治学

『国家のゆくえ——21世紀世界の座標軸』（共著、芦書房、2001年）、「ドイツ民主共和国と『社会主義のなかの教会』」『西洋史学』第214号（2004年）、「『スターリン・ノート』と冷戦1950-1952年——ドイツ統一問題をめぐるドイツ社会主義統一党 (SED) の動向」『ロシア・東欧研究』第37号（2009年）